

2022 年度 研究所活動報告

研究会

「フランスの女男職業平等政策」

2022年7月8日、日本大学法学部の神尾真知子特任教授をお招きして、研究会を開催いたしました。

フランスにおける労働政策の変遷や、家族政策の現状など、大変充実したお話をいただきました。フランスは過去には日本と類似した状況もありながら、その後変革を行ってきた等、大変示唆に富む内容でした。

フロアからの質疑応答では、日本への応用といった点などの議論が交わされ、惜しまれつつの閉会となりました。

研究会

「女性のリカレント教育とコロナ禍が照らし出した新たな状況」

2022年9月22日、東洋大学の矢口悦子学長をお招きして、研究会を開催いたしました。

リカレント教育にみられる3つの型をはじめ、大学におけるリカレント教育像、日本と欧州におけるリカレント教育の歴史などを整理したうえで、欧州で実施されている女性の「再出発」のための多様な教育機会についてお話をいただきました。多くの成人学生が学ぶ英国における大学の様子やリカレント教育をめぐる女性に関する課題など、大変参考となる内容でした。

参加者との質疑応答では、様々な議論が展開され、リカレント教育の可能性について視野が広がるものとなりました。

研究報告会

「日本における女性音楽家の職業生活に関する調査報告」

2022年12月16日、現代女性キャリア研究所インターンシップ生のセビンディク・バステ氏（10月～約2ヶ月間滞在）による研究報告会を開催いたしました。

バステ氏が、当研究所インターンシップ期間中に行った「日本における女性音楽家の職業生活に関する調査」（アンケート調査及びインタビュー調査）の結果をもとに、女性音楽家のキャリア形成の状況と直面する課題について報告いただきました。フロアからも質問や感想などが寄せられ、大変有意義な研究会となりました。

研究会

「Families in Israel : Between post-modernity and conservatism」

2022年3月8日、テルアビブ大学（Tel Aviv University）のダリッド・ブロッシュ先生（Dr. Dalit Bloch）をお招きして研究会を開催いたしました。

グリッド・ブロッシュ先生からは、イスラエルにおける様々な分断の状況やLGBT、女性労働の状況などをご講演いただきました。日本とも類似した課題もみられるなど、大変示唆に富む内容となりました。

本学文学部の高梨博子教授に同時通訳をいただき、フロアとの質疑も円滑に行われ、大変有意義な研究会となりました。

研究会

「子どもを持つ就業者のコロナ禍の家事・育児時間と働き方」

2022年3月16日、リクルートワークス研究所の大谷碧氏をお迎えして、研究会を開催いたしました。

リクルートワークス研究所で行われた2つのアンケート調査から、コロナ禍の家事や育児への影響やテレワークに関する分析などについてご講演いただきました。

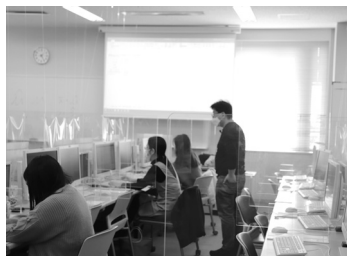
質疑応答の際には、活発な意見交換も行われ、意義深い研究会となりました。

ワークショップ

社会調査に役立つ統計分析：SPSS ワークショップ

現代女性キャリア研究所では、2011年度から2018年度まで、毎年学内の学生・教職員を対象として「社会調査に役立つ統計分析：SPSS ワークショップ」を開催していましたが、残念ながら2019年度及び2020年度はコロナ禍により開催を見送りました。2021年度からは、参加可能人数を減らしたり、間仕切り（パーティション）を設置するなど、対策を十分に取りながら、メディアセンターのご協力も得て、開催いたしました。

講師を務めていただいているニッセイ基礎研究所の金明中先生には、SPSS基本操作からデータの加工などの基礎知識、統計分析の理解からクロス集計、回帰分析など基礎編と応用編を計3日（2023年3月8日（水）、の基礎編と9日（木）、10日（金）の応用編）にわたって実践的学習を含んだ講義をいただきました。参加後アンケートの満足度も高く、本年度も大変好評なワークショップとなりました。



2022 年度 彙報

◆研究事業

・2022 年度における傘下研究事業は以下のものである。

- (1) WHO 国際ネットワーク参加自治体間における高齢者福祉政策の相互学習の比較研究 (増田 幸弘)
- (2) 現代日本における貧困の検証：生活保護制度再考への示唆 (岩永 理恵)
- (3) 家族・家計経済研究センター (永井 暁子)

・独自研究事業の進展

- (1) 企業における働き方事例調査を進めた。
- (2) 「女性とキャリア」に関わる調査報告書の収集を進め、書誌データベースの拡充を行った。
- (3) 全労済の助成による調査研究「リカレント教育課程修了者のライフキャリア形成促進政策に関する研究：女性を中心に」(研究代表者：尾中 文哉)

◆教育支援

- ・平塚らいてう賞の選定支援：2年ぶりに再開した平塚らいてう賞の事務局業務として応募書類などの確認及び選考委員会の開催などを担当した。
- ・インターンシップ生受け入れ：セブندیック・ベステ (ライデン大学)
受入期間：2022 年 10 月 11 日～2022 年 12 月 20 日
- ・資料室における図書・雑誌資料等の閲覧提供を行った。

◆情報の発信・ネットワークの構築

・研究事業の一環として、以下のシンポジウム、研究会、ワークショップなどを開催した。さらに学外の研究者や研究機関との交流を行った。

(1) シンポジウム

「男性育休のいま—育休制度 30 年を迎えて—」シンポジウム

【講演】「男性の育休：求められる背景と課題」

武石 恵美子 (法政大学教授)

「男性育休先進国スウェーデンの実践的な取り組み」

高橋 美恵子 (大阪大学教授)

【事例報告】「より誰もが働きやすい環境をつくる「なりキリンママ・パパ」研修等のご紹介」

豊福 美咲 (キリンホールディングス株式会社)

「清水建設における男性育休取得推進への挑戦」
西岡 真帆（清水建設株式会社）

【パネルディスカッション】コーディネーター 武石 恵美子
パネリスト：高橋 美恵子、豊福 美咲、西岡 真帆
2022年12月3日（土）10:00～12:40

成瀬記念講堂、オンライン 同時開催

(2) 研究会・研究報告会

「フランスの女男職業平等政策」

講師：神尾 真知子（日本大学法学部特任教授）

2022年7月8日（金）15:00～17:00 オンライン開催

「女性のリカレント教育とコロナ禍が照らし出した新たな状況」

講師：矢口 悦子（東洋大学学長）

2022年9月22日（木）11:00～13:00 オンライン開催

「日本における女性音楽家の職業生活に関する調査報告」

講師：セビンディク・ベステ（当研究所インターンシップ生）

2022年12月16日（金）15:00～16:00 新泉山館大会議室、
オンライン 同時開催

「Families in Israel : Between post-modernity and conservatism」

講師：Dr. Dalit Bloch（Tel Aviv University）

2023年3月8日（水）10:00～12:00 オンライン開催

「子どもを持つ就業者のコロナ禍の家事・育児時間と働き方」

講師：大谷 碧（リクルートワークス研究所）

2023年3月16日（木）15:00～17:00 オンライン開催

(3) ワークショップ

SPSS ワークショップ

講師：金 明中（ニッセイ基礎研究所）

2023年3月8日（水）～10日（金）13:00～17:00

百年館低層棟コンピューター演習室1

◆研究所発行物

- ・日本女子大学現代女性キャリア研究所 機関誌『現代女性とキャリア』第14号
- ・日本女子大学現代女性キャリア研究所ニューズレター vol.14

『現代女性とキャリア』編集規定

(2023.8.7 委員会決定)

1. 本誌は日本女子大学現代女性キャリア研究所の機関誌であって、原則として年1回発行とする。
2. 本誌の編集は編集委員会ならびに編集委員会事務局によって行う。
3. 本誌は原則として、女性とキャリアに関する研究発表の場とする。この場合のキャリアとは職業経歴だけでなく、社会の中での女性の「生き方」としてとらえることとする。本誌では、投稿原稿（論文および研究ノート）、編集委員会による依頼原稿（特集、書評、文献紹介、寄稿論文、その他）等を掲載するものとする。
4. 原稿の作成は、別途定める執筆要項に従うものとする。また投稿は、別途定める投稿規程にもとづいて行うものとする。
5. 投稿原稿の採否は、所定の査読手順に従い、編集委員会において決定する。
6. 編集委員会は、依頼原稿の執筆者を決定して依頼を行い、執筆された原稿の掲載可否を決定する。
7. 書評および文献紹介の対象となりうる図書は、編集委員会が女性とキャリアに関する研究に対して有意義と認めるものとする。
8. 編集委員会は、掲載予定の原稿について、本誌編集方針に則って、漢字・平仮名表記の別など、多少の原稿整理をすることができる。
9. 論文の掲載順序は編集委員会が決定する。
10. 本誌に掲載された論文の著作権はすべて本研究所に帰属し、本研究所ホームページ及び国立情報学研究所（CiNii）、日本女子大学学術情報リポジトリ上で電子化・公開される。
11. 本誌を無断で複製あるいは転載することを禁ずる。

『現代女性とキャリア』投稿規定

(2011.10.25 委員会決定)

(2017.6.30 改訂)

(2023.8.7 改訂)

1. 投稿は女性とキャリアに関する研究論文及び研究ノートとする。この場合のキャリアとは職業経歴だけでなく、社会の中での女性の「生き方」としてとらえることとする。研究ノートは、論文に準ずるもので、研究上の問題提起、研究プロジェクトの経過報告、他の著書・論文への批判・反論、外国書の紹介・批判などをテーマとする。
2. 投稿資格は問わない。
3. 同一号に複数の論文等（共著を含む）を投稿することはできない。
4. 投稿原稿は投稿規定を満たした未発表のものに限る。ただし、学会等で口頭発表したものについては、その限りではない。また、他誌との二重投稿は認めない。
5. 投稿にあたっては、別途定める「執筆要項」に従って原稿を作成し、体裁を整え、編集委員会事務局（riwac-ed ☆ fc.jwu.ac.jp ☆→@）にメール添付により2月末日までに

送付する。期日までに送付されなかった原稿、執筆要項に定められた字数等の制限を超えた原稿は一切受理しない。編集委員会事務局は原稿受付後、1週間以内に受付した旨を連絡するので、連絡が来ない場合は、投稿者は自身の責任において編集委員会事務局に確認する。

6. 投稿の際には、必要事項を記入した「投稿申込書」を必ず添付する。

<投稿申込書記載項目>

①氏名（ふりがな）、ローマ字表記、②住所・電話番号、③所属・職名、④論文のタイトル、⑤投稿の種別（論文／研究ノート）、⑥電子メールアドレス

7. 掲載を認められた投稿者は、指示にしたがって修正したうえ、完成原稿をメールに添付し、指定した期日までに提出する。完成原稿には、執筆者名、所属などを記載する。

8. 投稿論文の査読は、著者名等を匿名にして行っている。文献等の表記の際には、匿名にすべき箇所が最小限ですむよう、本人の著であっても、「筆者」「拙著」等とせず、著者名で表記する。

9. 本規程の変更は、編集委員会の議を経ることを要する。

『現代女性とキャリア』執筆要項

(2011.10.25 委員会決定)

(2017.6.30 改訂)

(2023.8.7 改訂)

1. 執筆の形式

(1) 原稿は、A4判縦置き・横書き、40字×40行で作成し、フォントは10.5明朝（章・節・項はゴシック）、MSWord形式およびPDF形式のファイル両方をメール添付にて提出する。（縦書きを希望する場合は要相談）。

(2) 論文及び研究ノートは、1) タイトル、2) 英文タイトル、3) 氏名、下にローマ字表記、4) 英文要旨（200語程度）、5) 英語キーワード3つ（日本語訳付）、6) 本文、図表等、7) 文末注、8) 文献、9) 所属、の順に構成し、総ページ数を論文は12ページ以内、研究ノートは10ページ以内とする。

2. 本文

(1) 本文中の見出しは以下の順でランクを統一する。

1. }
(1) } 数字：全角
1) }

(2) 年号は西暦表記を基本とする。

ただし、必要に応じて「昭和50年代」などの和暦表記を用いる。

(3) アラビア数字やアルファベットは半角にする。

(4) () 「」 『』 等のかっこは全角にする。

(5) 句点と句読点は「、」「。」を用いることとする（英文要旨には「,」「.」を用いる）。

3. 図表等

(1) 図・表等を挿入する場合、原稿の該当箇所に挿入もしくは添付する。

(2) 他の著作物からの引用は、出典を明記し、必要に応じて著作権保持者から許可を得る。

(3) 図・表は、それぞれに通し番号をつけ、タイトルをつける。

例 図1、表1

図-1、表-1

4. 注記、文献

(1) 注記は該当箇所の右肩に通し番号を付し、注は本文末尾に一括する。

(2) 引用・文献は、原則として次の方式によって記載する。

- ① 文献を一括してアルファベット順に並べたリストを作成し、末尾に付す。
- ② 文献注は、原則として文献リストへの参照指示という形で記す。すなわち、本文や注の該当箇所に、(著者名(姓) 西暦発行年「:」 ページ)を記して、文献リストの該当文献の参照を指示する形式をとる。
- ③ 文献記載および配列の方法(形式)は指定しないが、論文の中で統一する。

例・書籍：著者名，出版年，『タイトル-サブタイトル』出版社名．

・雑誌論文：著者名，出版年，「論文名」『掲載誌名』巻(号)，掲載ページ．

・編書論文：論文著者名，出版年，「論文名」編者名『編書タイトル-サブタイトル』出版社名，掲載ページ．

・翻訳書：著者ファミリーネーム，ファーストネーム他，出版年，タイトル：サブタイトル，出版社名．(＝出版年，訳者名『訳書タイトル-サブタイトル』出版社名)

・欧文書籍：著者ファミリーネーム，ファーストネーム他，出版年，タイトル：サブタイトル，出版社．

・欧文雑誌論文：著者ファミリーネーム，ファーストネーム他，出版年，“論文タイトル：サブタイトル”，掲載誌タイトル：サブタイトル，巻(号)，掲載ページ．

④ 欧文書籍ならびに欧文雑誌論文の場合は、書名(タイトル：サブタイトル)・雑誌名(掲載誌タイトル：サブタイトル)をイタリック体にする。

⑤ 同一著者が同一年に発行した複数の文献は、発行年を2009a、2009bのように表記して区別する。

現代女性キャリア研究所 現代女性とキャリア 第15号

2023年9月30日発行

編集 日本女子大学現代女性キャリア研究所編集委員会

編集委員長 永井 暁子

東京都文京区目白台 2-8-1

日本女子大学現代女性キャリア研究所

Tel : 03-5981-3380 Fax : 03-5981-3381

発行 日本女子大学現代女性キャリア研究所

印刷 膳栄社

東京都千代田区神田猿楽町 2-2-12
